

# ヨド倉庫

基礎図・梱包組合せ表・  
梱包明細表

**SOB-3057型**  
(L)・(M)・(H)・(FH)



このたびは「ヨド倉庫」をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。組み立てる前に、本紙と組立説明書1|2を必ずお読みください。また取扱説明書・保証書は大切な書類ですので、施工完了後、必ずお客様へお渡しください。

●この説明書に書かれている注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や損害を未然に防止するためのものです。注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをする生じることが想定される内容を、「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、各項にわたって記載されている注意事項についてご理解の上、組立にお役立てください。

## 注意

施工の際には、次の点を必ず守ってください。

- まず、御注文通りの商品かどうかを本紙の梱包組合せ表・梱包内容表にて確認してください。
- 部材の共通化のために、実際には使用しない孔のあいている部材がありますので、説明書に従って組み立ててください。
- 部材名称の右・左は、正面に向かって右側に付く部材を右、左側に取付く部材を左にします。
- 部材の組立てでは、ボルトの孔を合わせて組立てください。  
ボルト孔が合わなくなった場合はボルトをゆるめ、ボルトの孔位置を合わせてください。
- 組立の際には、手を切らないよう、必ず手袋を着用してください。
- 風の強い日、雨の日は、組立作業をさけてください。

- 高い足場が必要な時は、踏み台、脚立等安定した足場を使用してください。
- 柱等の重量物は運搬、据付の際に複数人数で行ってください。
- 組立部材には、長尺で重い物もありますので、振り回したり落としたりしないよう注意してください。
- 組立後、各部のボルト・金具の忘れや緩みがないか確認してください。
- 工事完了後は、必ず切り粉を取り除いてください。
- 電気配線工事は、必ず有資格者が行ってください。
- 柱の傾きが5mmを超えるとシャッターの開閉に支障をきたす場合がありますのでサゲフリ等で寸法の確認を必ず行なってください。
- 柱間は広すぎると鍵がかからなくなるだけでなく、強風時にスラットがレールから外れる場合があります。
- シャッターのパネ固定ピンを抜く時は、必ずシャッターシャフトを本体にボルトで固定し、スラットを全て差し込んで降ろした状態で行ってください。

## 表示

## 表示の意味



**警告**

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。



**注意**

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

## 設置場所の制限 ※建築基準法上、建築できない地域があります。

- シャッターなし及び目隠しなしでは設置しないでください。
- 大屋根からの雨水や雪が、直接ヨド倉庫の屋根に落ちる場所には設置しないでください。
- 建物の屋上、崖のふち、風当たりの強い場所には設置しないでください。
- 積雪地域に設置した場合、使用状況によっては庫内が結露する場合があります。
- 給湯器の前には設置しないでください。排気ガスにより塗装の変色等の原因になります。

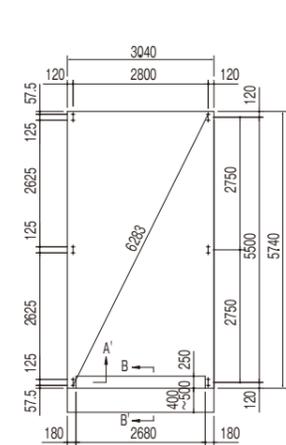
## 基礎参考図

(地耐力50kN/m<sup>2</sup>以上、コンクリート設計基準強度18N/mm<sup>2</sup> 基準風速34 m/s, 地表面粗度区分Ⅲ)

※アンカーボルト間の許容寸法は、前後方向で±5mm左右方向で±3mmで設定されています。  
※寒冷地の場合、凍結深度等を考慮し、実情にあわせて設計してください。※その他現地の実情にあわせて設計してください。

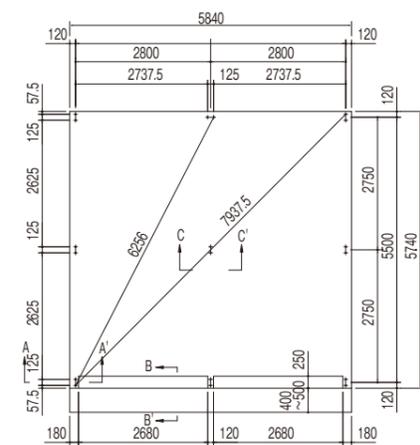
### ◎ベタ基礎の場合

#### <単棟>

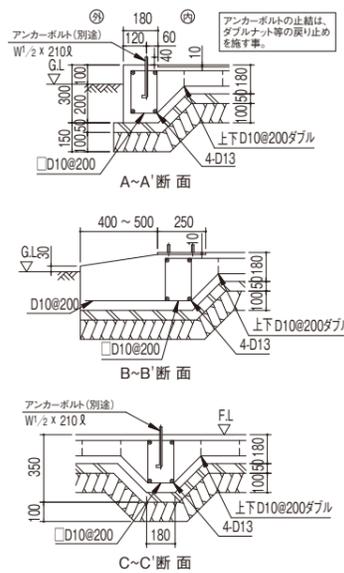


基礎伏図

#### <2連棟>

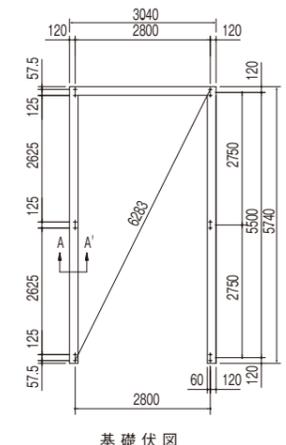


基礎伏図



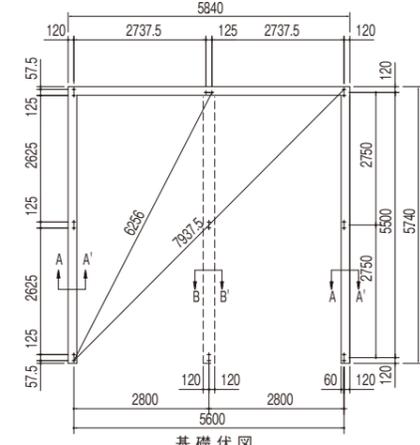
### ◎布基礎の場合

#### <単棟>

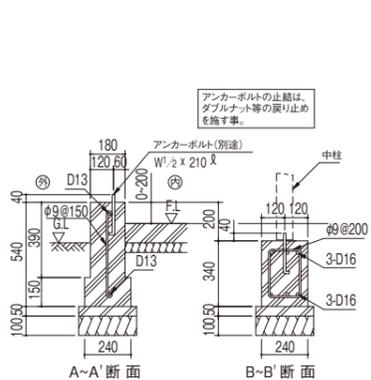


基礎伏図

#### <2連棟>

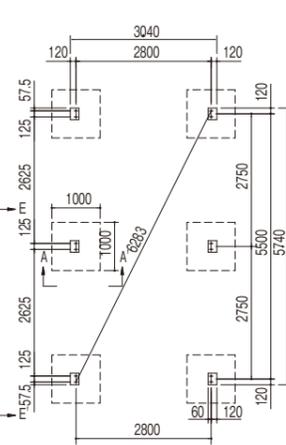


基礎伏図



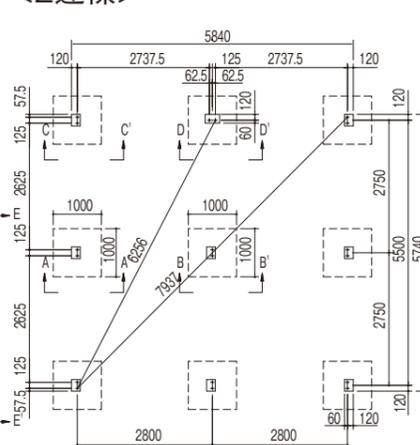
### ◎独立基礎の場合 (SOB-3057H, FH型の場合)

#### <単棟>

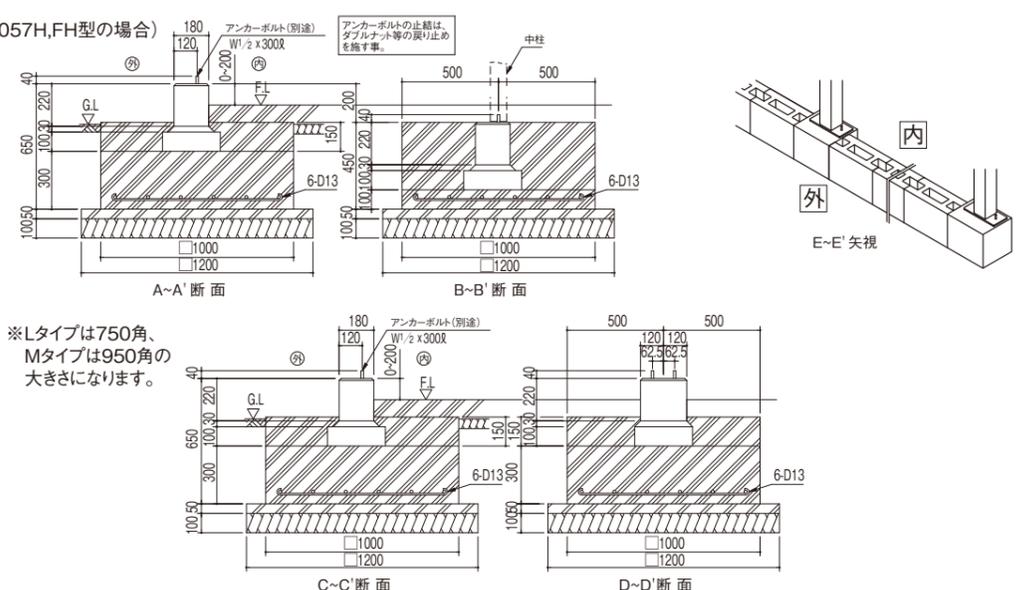


基礎伏図

#### <2連棟>



基礎伏図



※Lタイプは750角、Mタイプは950角の大きさになります。

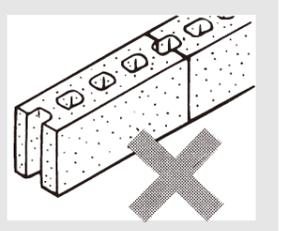
## ■使用ボルト

名称	形状	名称	形状
六角袋ナット M10用		六角ボルト M10×70 M10×100	
六角フランジナット M6用・M8用 M10用・M12用		六角フランジボルト M8×100	
M8ナット(白) ※シャッタープラケットに取り付けています。		六角ボルト M8×60(白)	 ※シャッタープラケットに取り付けています。
六角ナット M8用		六角ボルト M12×30	
平ワッシャー M10用・M12用		アプセット六角セムボルト M6×16・M6×16BN M8×18・M8×21 M10×23・M10×30	
山座M8用		トラス小ネジ M6×16	
ウールパッキン M8用		ルーフトドリルビス 6φ×28	
セルフドリルビス 4φ×13		ルーフトドリルビス キャップ	

## 基礎施工時の注意点

### 注意

強度上、ブロックでの布基礎は絶対におやめください。基礎の形状は壁、土間位置に応じて変更してください。また、強度確保のため、鉄骨入りとしてください。





# ヨド倉庫

## 組立説明書 1

### SOB-3057型 (L)・(M)・(H)・(FH)

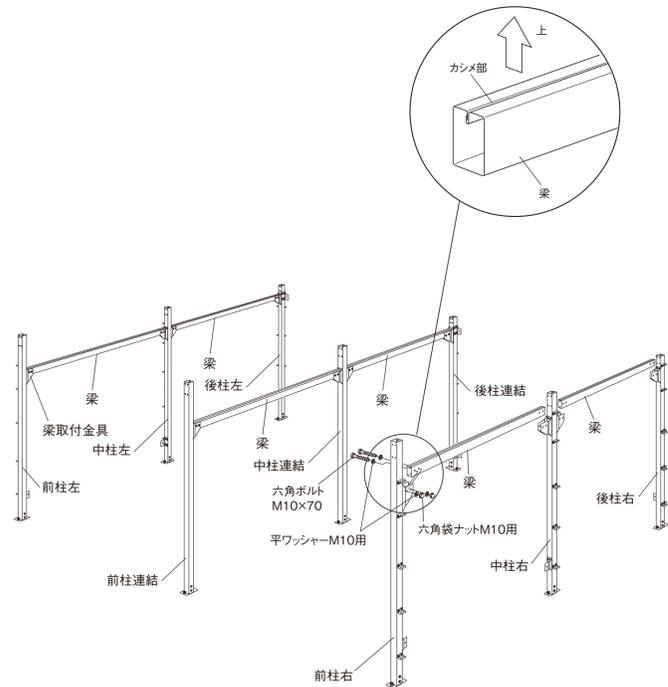


※本説明書はSOB-3057Mの2連棟を基に説明しております。  
 ※組立説明書Ⅱ・Ⅲの順で組立てください。  
 ※下屋付きの場合は本説明書と「ヨド倉庫下屋」の組立説明書を参照して組み立ててください。

## 4 梁

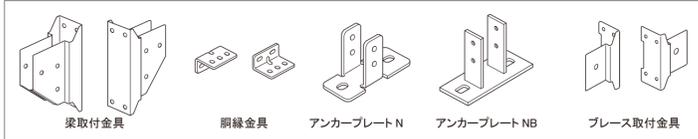
①各柱に取付けた梁取付金具の上からカシメ部が上にくるように梁を差込み、庫内側からボルト止めします。  
 (六角ボルトM10×70、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用)  
 ※梁は全て共通で梁取付金具がある両端と連結部に入ります。

注意 下屋付きの場合、梁を止める前に前柱に下屋用コーナーカバーと束金具を取付けてください。

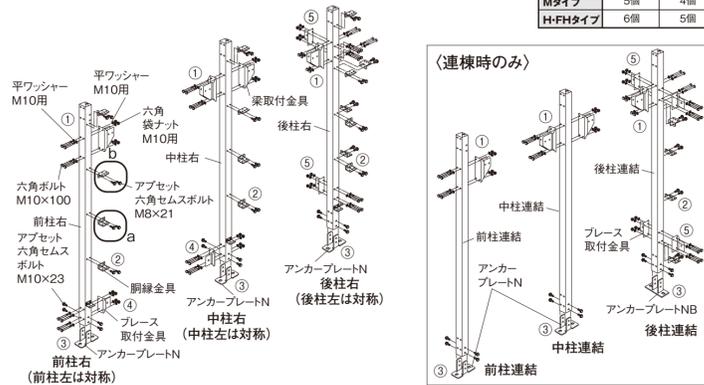


## 1 前工程 (1)

(使用金具一覧)

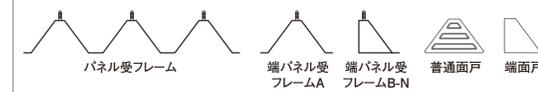


①梁取付金具を柱の上部に取付けます。  
 (六角ボルトM10×100、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用)  
 ※Hタイプの場合は下図と取付位置が異なりますので注意してください。  
 (柱の上端より806mm下の位置になります)  
 ②胴縁金具を柱のタップに取付けます。  
 (アプセット六角セムスボルトM8×21)  
 ※下から3段目までは図aのように取付け、4段目からは図bのように取付けます。  
 ③アンカープレートNBを後柱連結に取付け、それ以外の柱にはアンカープレートNを取付けます。  
 (アプセット六角セムスボルトM10×23)  
 ④プレース取付金具を図のように前柱右(左)及び中柱右(左)の下部に取付けます。  
 (六角ボルトM10×100、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用)  
 ⑤同様に後柱の上下にもプレース取付金具を取付けます。  
 (六角ボルトM10×100、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用)  
 ※プレースの付かない所にはプレース取付金具は不要です  
 (⑧プレースの項目にある配置を確認ください。)

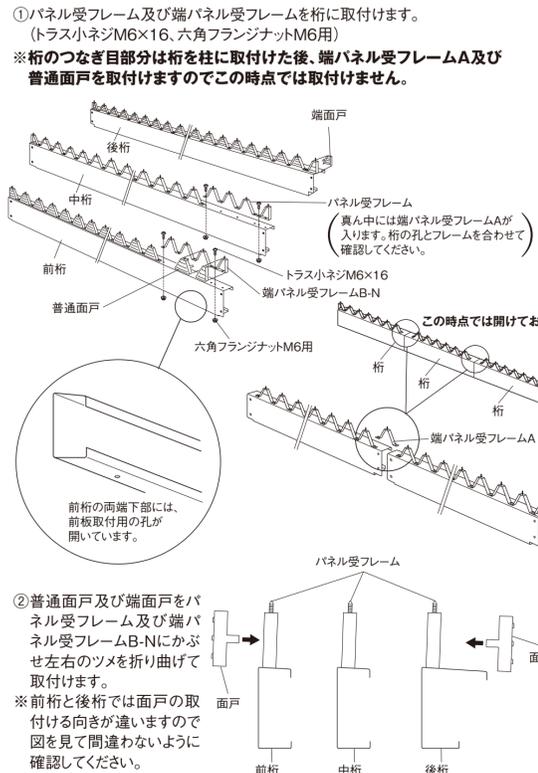


## 2 前工程 (2)

(使用金具一覧)

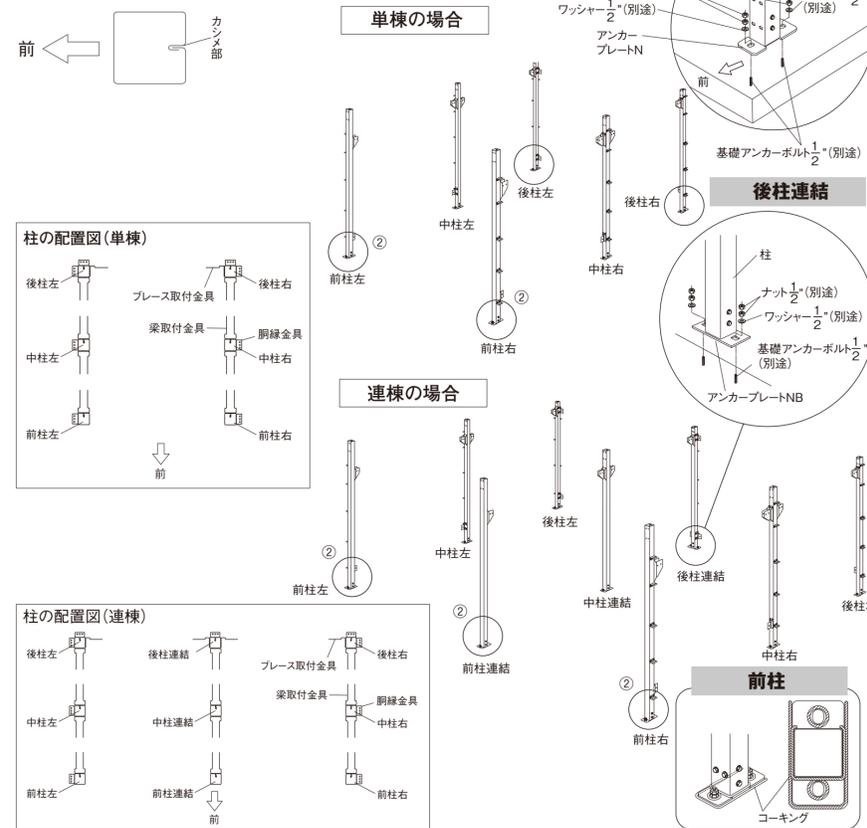


①パネル受フレーム及び端パネル受フレームを桁に取付けます。  
 (トラス小ネジM6×16、六角フランジナットM6用)  
 ※桁のつなぎ目部分は桁を柱に取付けた後、端パネル受フレームA及び普通面戸を取付けますのでこの時点では取付けません。  
 ②普通面戸及び端面戸をパネル受フレーム及び端パネル受フレームA及び端パネル受フレームB-Nにかぶせ左右のツメを折り曲げて取付けます。  
 ※前桁と後桁では面戸の取付ける向きが違いますので図を見て間違わないように確認してください。



## 3 柱

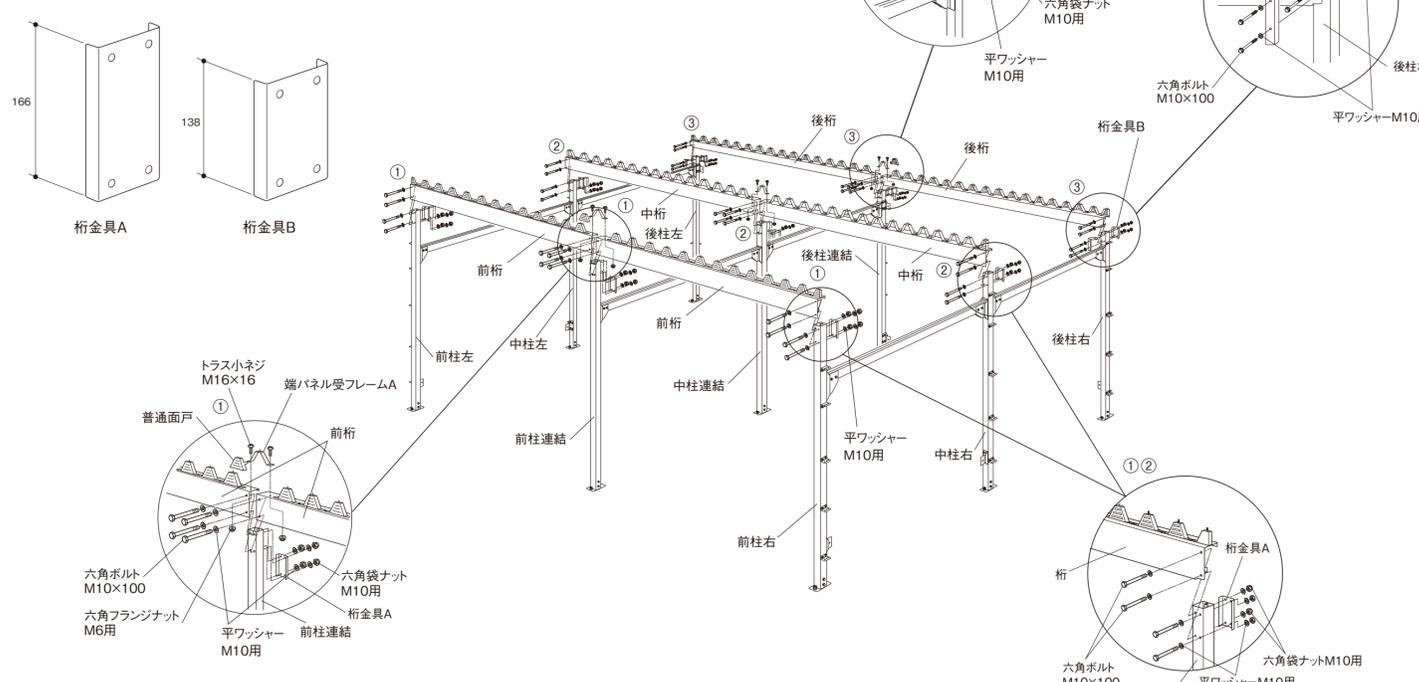
①柱をアンカーボルトに固定します。(ワッシャー1/2、ダブルナット1/2)  
 柱の向きはカシメ部が後にくるようにします。  
 ②前柱の下部には下図のようにコーキングしてください。



## 5 桁

注意 Hタイプには、前桁下・前板上が取り付けますので、右図を参照し、組み立ててください。

①前桁を前柱に仮預けし、桁金具Aと一緒にボルト止めします。  
 (M10×100六角ボルト、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用)  
 ②中桁を中柱に仮預けし、桁金具Aと一緒にボルト止めします。  
 (M10×100六角ボルト、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用)  
 ③後桁を後柱に仮預けし、桁金具Bと一緒にボルト止めします。  
 (M10×100六角ボルト、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用)  
 後柱の左右については端桁金具を取付けます。  
 ※連棟の場合は桁の連結部に端パネル受フレームAを取付けます。また、前桁・後桁には面戸も取付けます。



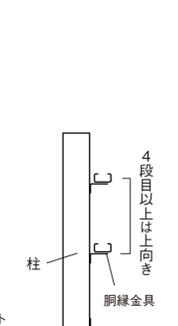
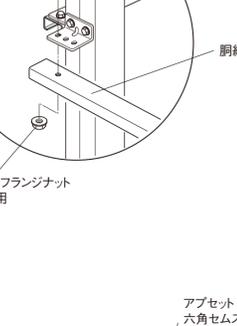
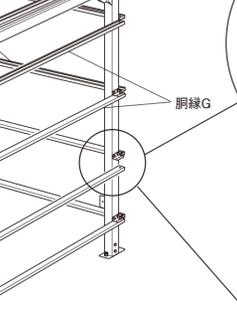
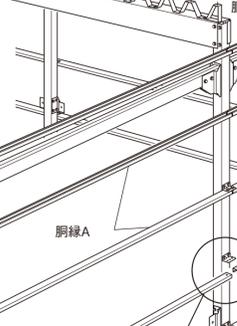
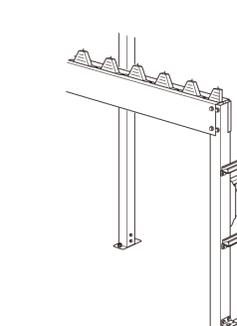
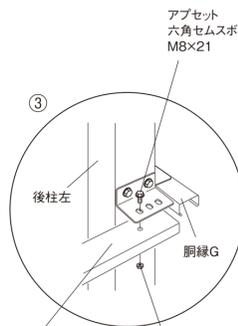
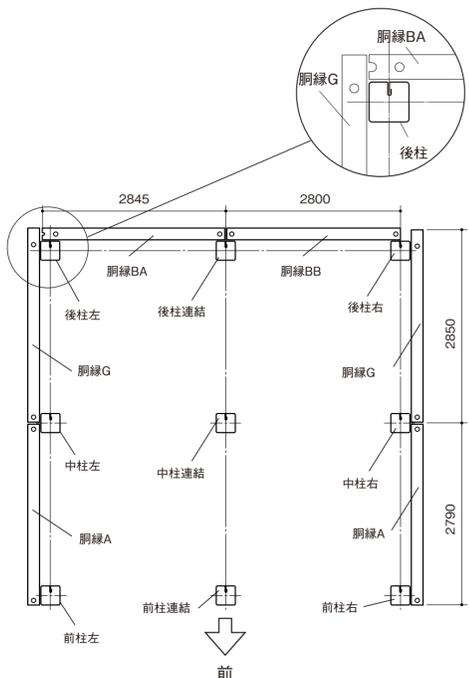
### Hタイプの場合

①桁仮預け金具を前柱に取付けます。  
 (アプセット六角セムスボルトM8×21)  
 ②前桁下を桁仮預け金具に仮預けし、取付けます。  
 (六角ボルトM10×100、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用)  
 ③前板上を取付けます。  
 (アプセット六角セムスボルトM8×21六角フランジナットM8用)

## 6 胴縁

**注意** 胴縁は、この時点では仮止めで固定します。屋根をのせ、建ちを調整してから本締めします。

- 胴縁Aを側面の前柱と中柱の胴縁金具に取り付けます。  
(アプセット六角セムスボルトM8×21、六角フランジナットM8用)
  - 胴縁Gを側面の中柱と後柱の胴縁金具に取り付けます。  
(アプセット六角セムスボルトM8×21、六角フランジナットM8用)
  - 胴縁BAを後面の胴縁金具に取り付けます。  
(連結の場合は、正面向かって左より胴縁BA→胴縁BBの順に取り付けます。)  
この時、半円の切り欠きがある方を左端にくるように取り付けます。  
(アプセット六角セムスボルトM8×21、六角フランジナットM8用)
- ※**胴縁A・G・BA・BBは、長さや孔位置が違いますので間違わないように確認してください。**  
※**胴縁は、1～3段目は下向きに、4段目以上は上向きに取り付けます。**

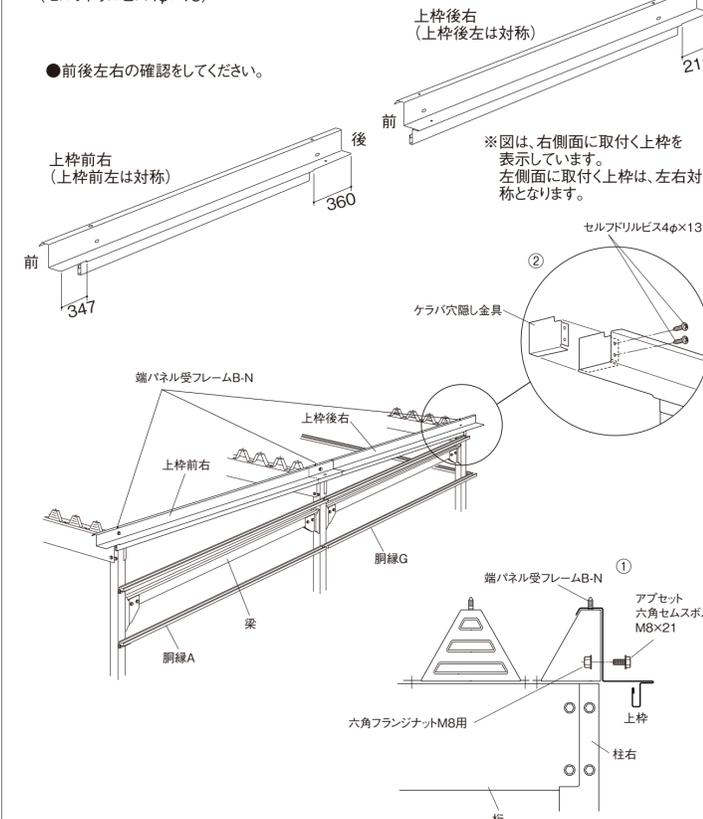


■胴縁本数

	側面	後面
Lタイプ	4本	4本
Mタイプ	5本	4本
H-FHタイプ	6本	5本

## 7 上枠

- 上枠後を端パネル受フレームB-Nの剣先に入れ、その上から上枠前を重ねて下図の様に取付けます。  
(アプセット六角セムスボルトM8×21、六角フランジナットM8用)
- ケラバ穴隠し金具を上枠後に取付けます。  
(セルフドリルビス4φ×13)

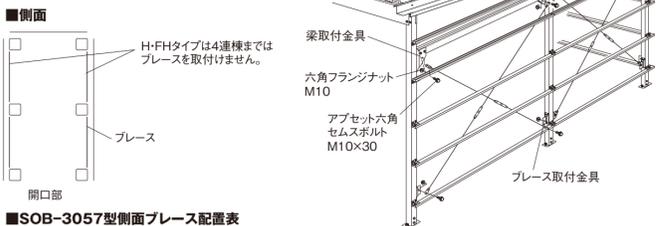


## 8 ブレース

※**全てのブレースを取り付ける事により、建築基準法上の風荷重・地震荷重に耐える構造となっていますので、必ず全てのブレースを取り付けてください。**

### 側面ブレースの取付

- ブレースを側面前の梁取付金具とブレース取付金具に取り付けます。  
(アプセット六角セムスボルトM10×30、六角フランジナットM10用)
- ※**Hタイプ・FHタイプは、ブレースが太く(10.7φ)なります。**  
(六角ボルトM12×30、平ワッシャーM12用、六角フランジナットM12用)
- ※**側面にオプション扉ドア・引戸・補助ドアが付く場合は、ブレースの取付け位置を変更する必要がありますので、次の[オプション扉ドア・引戸・補助ドアを取付ける場合]を先に確認してください。**



■SOB-3057型側面ブレース配置表

機種	Lタイプ		Mタイプ		ブレース径
	NA-B-L ℓ=3015mm ℓ1=1080mm ℓ2=1875mm	NA-B-M ℓ=3310mm ℓ1=1080mm ℓ2=2170mm	前	後	
単棟	○	○	○	○	7.0φ
2連棟	○	○	○	○	7.0φ
3連棟	○	○	○	○	7.0φ
4連棟	○	○	○	○	7.0φ
5連棟以上	○	○	○	○	7.0φ

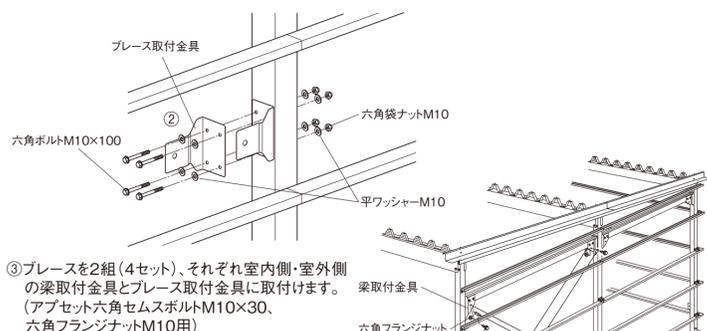
  

機種	H-FHタイプ		ブレース径
	SA-H ℓ=3545mm ℓ1=1080mm ℓ2=2375mm	後	
単棟	○	×	10.7φ
2連棟	○	×	10.7φ
3連棟	○	×	10.7φ
4連棟	○	○	10.7φ
5連棟以上	○	○	10.7φ

○:必要 ×:不要

### オプション扉ドア・引戸・補助ドアを取付ける場合

- ※**側面にオプション扉ドア・引戸・補助ドアを取付ける場合、ブレースの取付け位置を変更します。**  
(後面にはオプション扉ドア・引戸・補助ドアは付きません。)
- 開口部を取付ける側のブレース取付金具を外します。
  - 外したブレース取付金具を開口部を取付けない側のブレース取付金具と一緒に向かい合わせで取付けます。又、ブレース取付金具を外したところには、再度ボルトのみを取付け、柱の孔を隠します。  
(六角ボルトM10×100、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用)



### 後面ブレースの取付

- ブレースを柱上部のブレース取付金具と柱下部のブレース取付金具に取り付けます。  
(アプセット六角セムスボルトM10×30、六角フランジナットM10用)
- ※**Lタイプ・Mタイプの単棟及びHタイプ・FHタイプは、ブレースが太く(10.7φ)なります。**  
(六角ボルトM12×30、平ワッシャーM12用、六角フランジナットM12用)

■SOB-3057型後面ブレース配置表

機種	Lタイプ		Mタイプ		ブレース径
	SA-B-L ℓ=3015mm ℓ1=1080mm ℓ2=1845mm	SA-B-M ℓ=3310mm ℓ1=1080mm ℓ2=2140mm	前	後	
単棟	○	○	○	○	10.7φ
2連棟以上	○	○	○	○	7.0φ

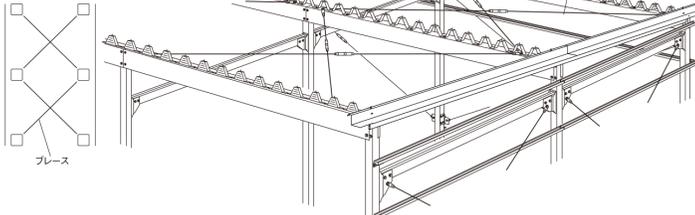
機種	H-FHタイプ		ブレース径
	SB-H ℓ=3650mm ℓ1=1080mm ℓ2=2480mm	後	
単棟	○	○	10.7φ
2連棟以上	○	○	10.7φ

○:必要 ×:不要  
※Lタイプ・Mタイプの2連棟以上の場合は側面ブレースと同じ。NA-B-L、NA-B-Mになります。

### 屋根ブレースの取付

- ブレースを全ての桁間に取付けます。  
(アプセット六角セムスボルトM10×30、六角フランジナットM10用)

### ■屋根面



■SOB-3057型屋根面ブレース配置表

機種	Lタイプ		Mタイプ		H-FHタイプ		ブレース径
	NC ℓ=3635mm ℓ1=1090mm ℓ2=2495mm	NC ℓ=3635mm ℓ1=1090mm ℓ2=2495mm	NC ℓ=3635mm ℓ1=1090mm ℓ2=2495mm	NC ℓ=3635mm ℓ1=1090mm ℓ2=2495mm	前	後	
単棟	○	○	○	○	○	○	7.0φ

### ■中間ブレースの取付

- ※**連棟数により強度を確保するため、連結部分にブレースを2組(4セット)取付ける必要があります。必要数は下記の表で確認してください。また、中間ブレースは、ブレースで区切られた面積が均等になるように配置してください。**

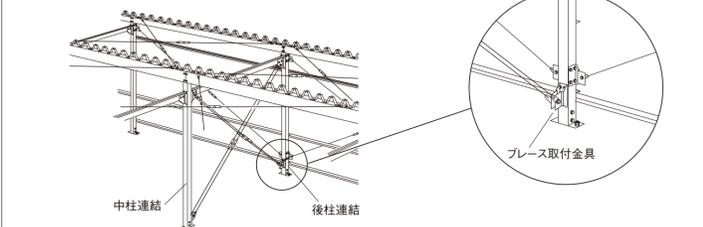
■SOB-3057型連結部ブレース配置表

機種	Lタイプ		Mタイプ		ブレース径
	NA-B-L ℓ=3015mm ℓ1=1080mm ℓ2=1875mm	NA-B-M ℓ=3310mm ℓ1=1080mm ℓ2=2170mm	必要本数	必要箇所	
5連棟まで	0	0	0	0	7.0φ
6連棟	0	0	4	1	7.0φ
7連棟	4	1	4	1	7.0φ
8連棟	4	1	8	2	7.0φ
9連棟	4	1	8	2	7.0φ
10連棟	8	2	8	2	7.0φ
11連棟	8	2	12	3	7.0φ
12連棟	8	2	12	3	7.0φ

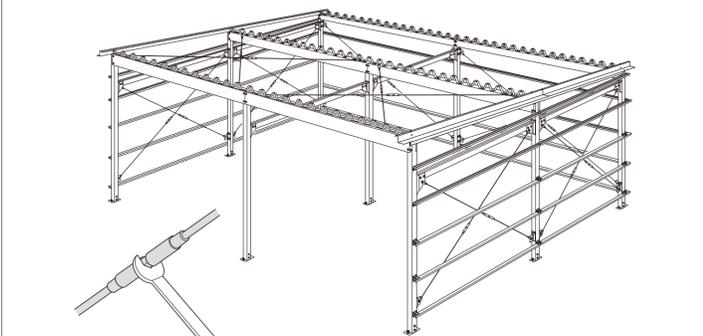
機種	H-FHタイプ		ブレース径
	SA-H ℓ=3545mm ℓ1=1080mm ℓ2=2375mm	必要本数	
5連棟まで	0	0	10.7φ
6連棟	4	1	10.7φ
7連棟	4	1	10.7φ
8連棟	8	2	10.7φ
9連棟	8	2	10.7φ
10連棟	8	2	10.7φ
11連棟	8	2	10.7φ
12連棟	8	2	10.7φ

- 中(前)柱連結・後(中)柱連結の足元にブレース取付金具を向かい合せて取付けます。  
(六角ボルトM10×100、六角袋ナットM10用、平ワッシャーM10用)
- ブレースを梁取付金具とブレース取付金具に取り付けます。  
(アプセット六角セムスボルトM10×30、六角フランジナットM10用)



### ブレースの取付確認

- 下図の様にターンバックルで調整し、倒れ、通り、対角等を正確に出してください。  
(今後の組立に支障がでます。)
- ※**屋根をのせた後も調整が必要です。**  
※**柱の傾きが5mmを超えるとシャッターの開閉に、支障をきたす場合がありますのでサゲフリ等で寸法の確認を必ず行ってください。**



この組立説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています  
部品箱の中の取扱説明書はお客様に必ずお渡しく下さい。  
2013.11月A制作

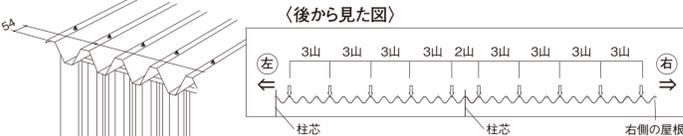




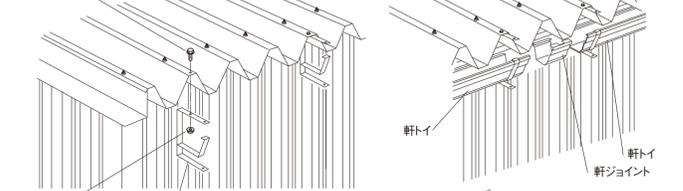
# 12 トイ

①屋根後部の矢印の位置に10φの孔を明けます。

●注意 孔明け位置を間違えると、鼻隠し後の孔と位置が合いませんので、**14鼻隠しを参照し、鼻隠し後を沿えて孔位置を確認してから孔をあけてください。**

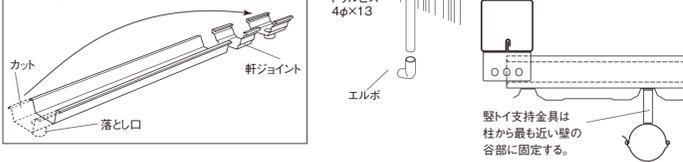


②軒トイ受金具を屋根にボルト止めします。(アプセット六角セムスボルトM8×18、六角フランジナットM8用)



③軒トイを軒トイ受金具に取り付けます。軒トイの継ぎ目は軒ジョイントで継ぎます。

④壁トイ支持金具を右図の位置に壁・胴縁と共締めし、壁トイとエルボを接続します。(セルフドリルビス4φ×13)



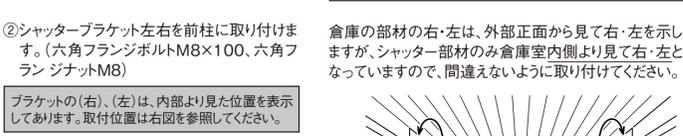
# 15 シャッター

●注意 リモコンシャッターの場合も同様の手順を進めて下さい。ただしシャッターシャフト部の配線はシャッター工事店が行いますので配線部品には触れないでください。

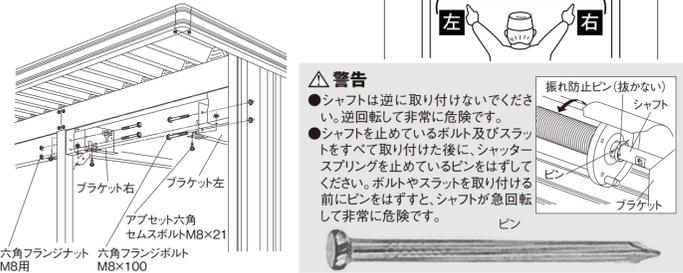
①前板を桁に取り付けます。(アプセット六角セムスボルトM8×21、六角フランジナットM8用)



②シャッターブラケット左右を前柱に取り付けます。(六角フランジボルトM8×100、六角フランジナットM8)



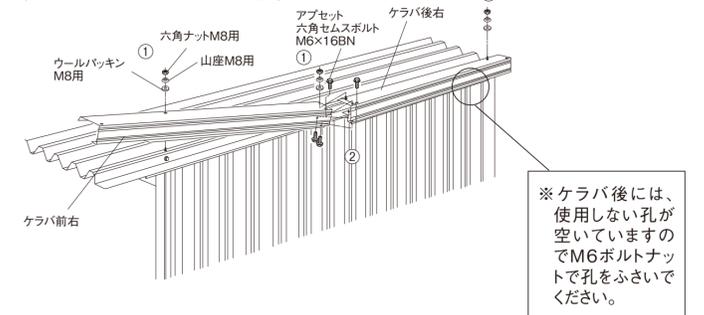
また、ブラケットと前板の下部を固定してください。(アプセット六角セムスボルトM8×21、六角フランジナットM8用)



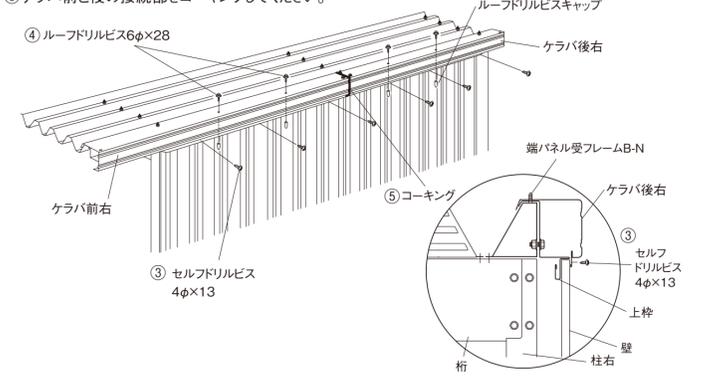
●警告 ●シャフトは逆に取り付けしないでください。逆回転して非常に危険です。 ●シャフトを止めているボルト及びスラストをすべて取り付けた後に、シャッタースプリングを止めているピンをはずしてください。ボルトやスラストを取り付ける前にピンをはずすと、シャフトが急回転して非常に危険です。

# 13 ケラバ

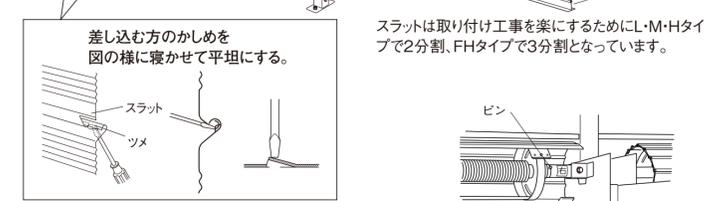
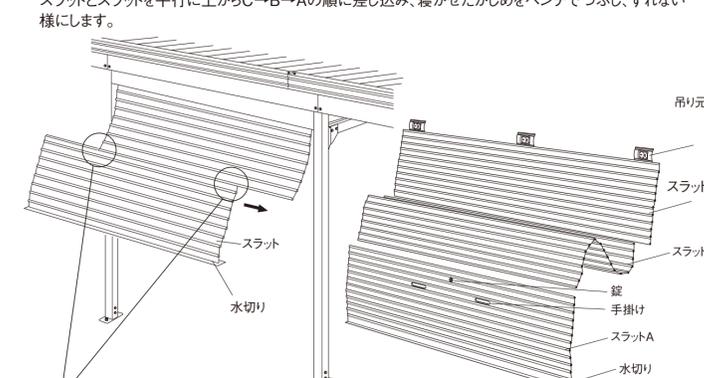
①ケラバ前右、後右をパネル受フレームの剣先ボルトに取り付けます。(ウールパッキンM8用、山座M8用、六角ナットM8用)



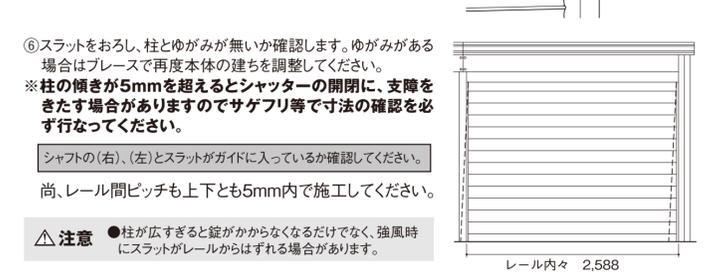
③ケラバのツブシ曲げの部分を前後各3ヶ所固定します。(セルフドリルビス4φ×13)



④スラットの両端のかしめ片側(差し込む方)だけをペンチやドライバーで寝かせ、平坦にします。スラットとスラットを平行に上からC→B→Aの順に差し込み、寝かせたかしめをペンチでつぶし、ずれないようにします。



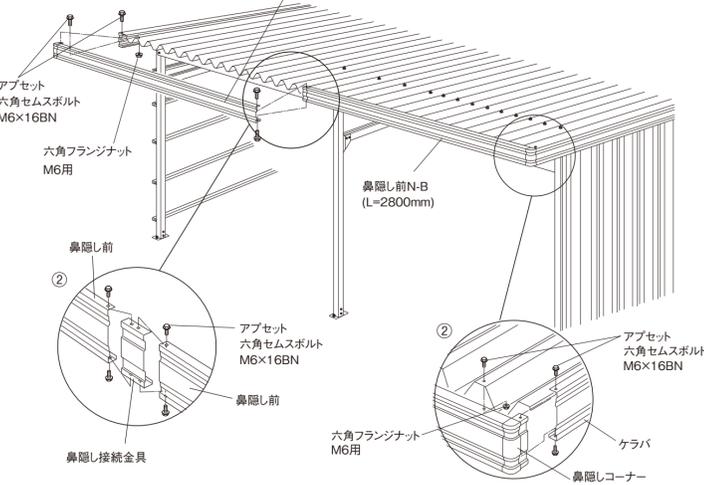
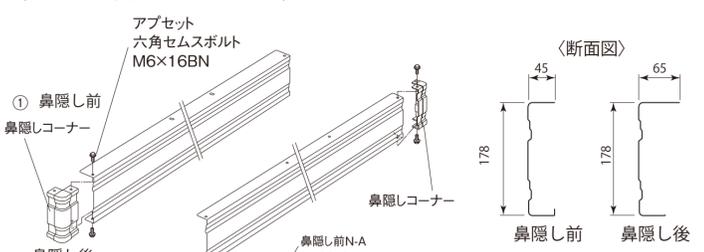
⑤シャフトを少し回転させた状態で写真のピンを抜き取ります。 ※ピンを抜く時は、必ずスラットをおろしてください。



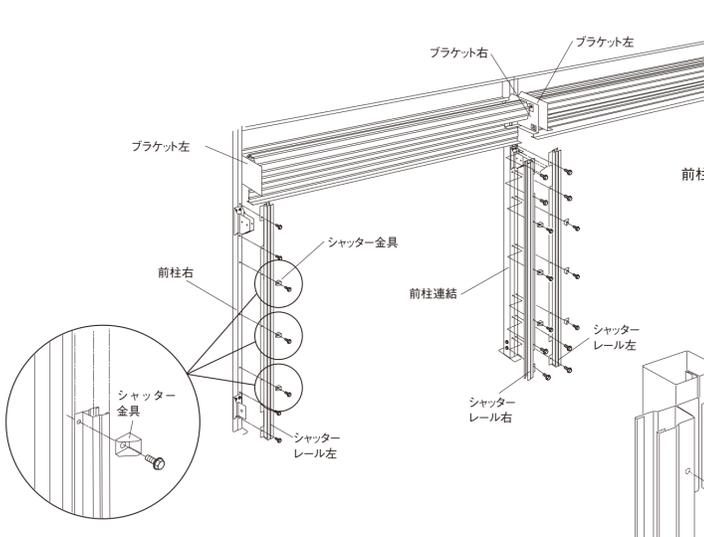
●注意 ●柱が広すぎると錠がかからなくなるだけでなく、強風時にスラットがレールからはずれる場合があります。

# 14 鼻隠し

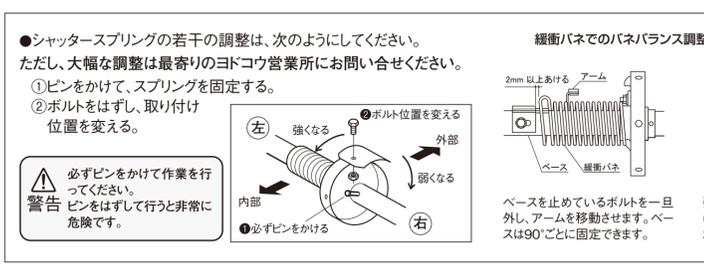
①鼻隠しコーナーを、鼻隠し前・後の両端に取り付けます。(アプセット六角セムスボルトM6×16BN) ※鼻隠しコーナーの上下の向きに注意して取り付けてください。



⑦シャッターレール左右をブラケット下部に差し込み、柱に取り付けます。(アプセット六角セムスボルトM8×21) この時、シャッター金具を図のように共締めします。 ※左、右各3個ずつをレールの中間部に取り付けます。

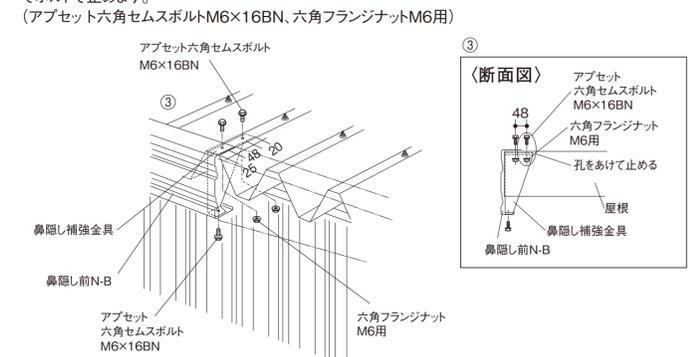


⑧シャッターの開閉チェック及び錠チェックをしてください。 ※錠はスラットの裏にあります。

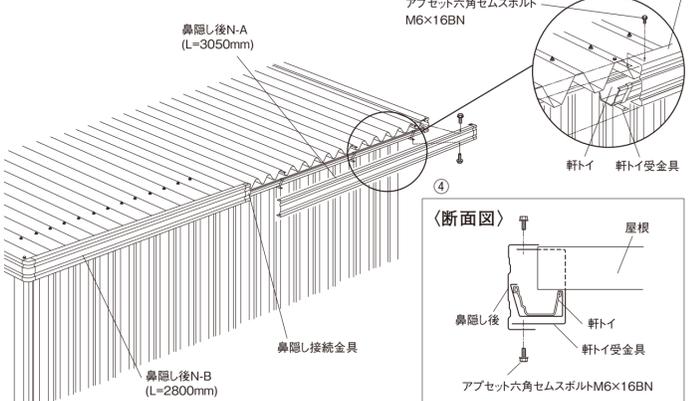


●シャッタースプリングの若干の調整は、次のようにしてください。ただし、大幅な調整は最寄りのヨドコウ営業所にお問い合わせください。

③鼻隠し補強金具を鼻隠し前N-Bに取り付けます。屋根には、鼻隠し補強金具に合わせて10φの孔を明けてボルトで止めます。(アプセット六角セムスボルトM6×16BN、六角フランジナットM6用)

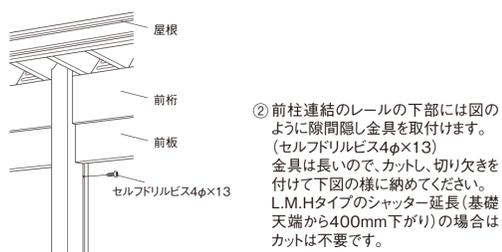


④同じ鼻隠し後をケラバと接続し、軒トイ受金具のタップにボルト止めします。鼻隠し後の継ぎ目も鼻隠し前と同様に接続します。(アプセット六角セムスボルトM6×16BN)

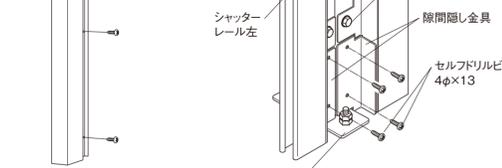


# 16 コーナーカバー前中・隙間隠し金具 (布基礎の場合のみ)

①連続タイプの場合、最後に前柱連結にコーナーカバー前中を取り付けます。(セルフドリルビス4φ×13)



②前柱連結のレールの下部には図のように隙間隠し金具を取付けます。(セルフドリルビス4φ×13) 金具は長いので、カットし、切り欠きを付けて下図の様に納めてください。L.M.Hタイプのシャッター延長(基礎天端から400mm下がり)の場合はカットは不要です。



以上で完成です。 この組立説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。 部品箱の中の取扱説明書はお客様に必ずお渡しください。 2013.11月A制作